

なり。

今開す 赴京の

正議大夫一員 鄭玖

使者三員 馬五刺 馬紐古 麻普都

都通事一員 陳義 共に人伴二十二名

国王附搭の蘇木一千斤・胡椒一千斤・番錫一千斤

正徳元年（一五〇六）九月初二日

右の符文は正議大夫鄭玖・都通事陳義等に付し、此れに准

ぜしむ

進貢等の事 符文

注（一）仁字号 同年月日の（二五〇三）が仁字号であり、又、対応

する執照（二九〇一）からみて、義字号の誤りではないかと

思われる。

（二）硫黄三千斤 対応する執照（二九〇一）には五千斤とある。

（三）麻普都 儀間平良親雲上真福。一四五一一一五三五年。首里

麻氏（田名家）三世（『家譜（三）』五八一頁）。

1-25-03

国王尚真の、進貢のため使者馬寧久等を遣わす符文

（二五〇六、九、二）

琉球国中山王尚真、進貢等の事の為にす。

今、特に王舅亜嘉尼施を遣わし、正議大夫鄭玖・長史蔡寶等と共に、共に表文一通を齎しむ。仁字号海船一隻に坐駕して硫黄三千斤・馬四匹を装載し、京に赴き進貢し、仍お礼部に赴き告稟して進取せしむる外、茲の論遣を承くれれば、途に在りて遅滞して便ならざるを得しむる母れ。須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

使者一員 馬寧久 人伴二名

国王附搭の胡椒一千斤・番錫一千斤

正徳元年（一五〇六）九月初二日

右の符文は馬寧久に付し、此れに准ぜしむ

進貢等の事 符文

1-25-04

国王尚真の、進貢謝恩のため正議大夫程璉等を遣わす符文

（二五〇七、八、一九）

琉球国中山王尚真、進貢、謝恩等の事の為にす。

今、特に正議大夫程璉を遣わし、長史蔡栢等と共に、共に表文

一通を齎しむ。寿字号海船一隻に坐駕して硫黄二万斤・馬一十五

匹・金結束金起沙魚皮紋靶紅漆鞘腰刀二把・兼金銀結束線紫靶紅

漆鞘腰刀二把・鍍金銅結束紅漆鞘線紫靶腰刀二十把・鍍金銅結束

紅漆靶鞘鎗一十把・鍍金銅結束螺鈿靶紅漆鞘鎗一十把・沈束香一

百斤・木香一百斤・丁香五百斤・番錫五百斤を装載し、京に赴き進貢し謝恩し、仍お礼部に赴き告稟して進取せしむる外、茲の論遣を承くれば、途に在りて遅滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

正議大夫一員 程璉

長史一員 蔡栢

使者二員 達魯 馬參魯

都通事一員 梁裕 共に人伴三十名

國王附搭の蘇木二千斤・胡椒一千斤・紅銅五百斤・番錫五百斤

正徳二年（一五〇七）八月十九日

右の符文は正議大夫程璉・都通事梁裕等に付し、此れに准

ぜしむ

進貢謝恩等の事 符文

注*『明実録』正徳四年二月己巳の条に関連の記事がある。

今、特に正議大夫梁能を遣わし、長史蔡遷等と共に、表文一通を齎捧せしむ。福字号海船一隻に坐駕して馬一十五匹・硫黄二万斤を装載し、京に赴き進貢し、仍お礼部に赴き告稟して進取せしむる外、茲の論遣を承くれば、途に在りて遅滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

正議大夫一員 梁能

使者三員 仁志魯 栢古 仮美

都通事一員 梁寛

人伴二十二名

國王附搭の蘇木五千斤・番錫一千斤・胡椒一千斤

正徳三年（一五〇八）八月十三日

右の符文は正議大夫梁能・都通事梁寛等に付し、此れに准

ぜしむ

進貢等の事の為にす 符文

注*この進貢については『明実録』正徳四年五月癸丑の条に記事がある。

(1) 蔡遷 生没年不詳。久米村蔡氏（儀間家）五世。渡明は六回に及ぶ（『家譜（二）』二五一頁）。

1-25-05

國王尚真の、進貢のため正議大夫梁能等を遣わす符文

(二五〇八、八、一三)

琉球国中山王尚真、進貢等の事の為にす。